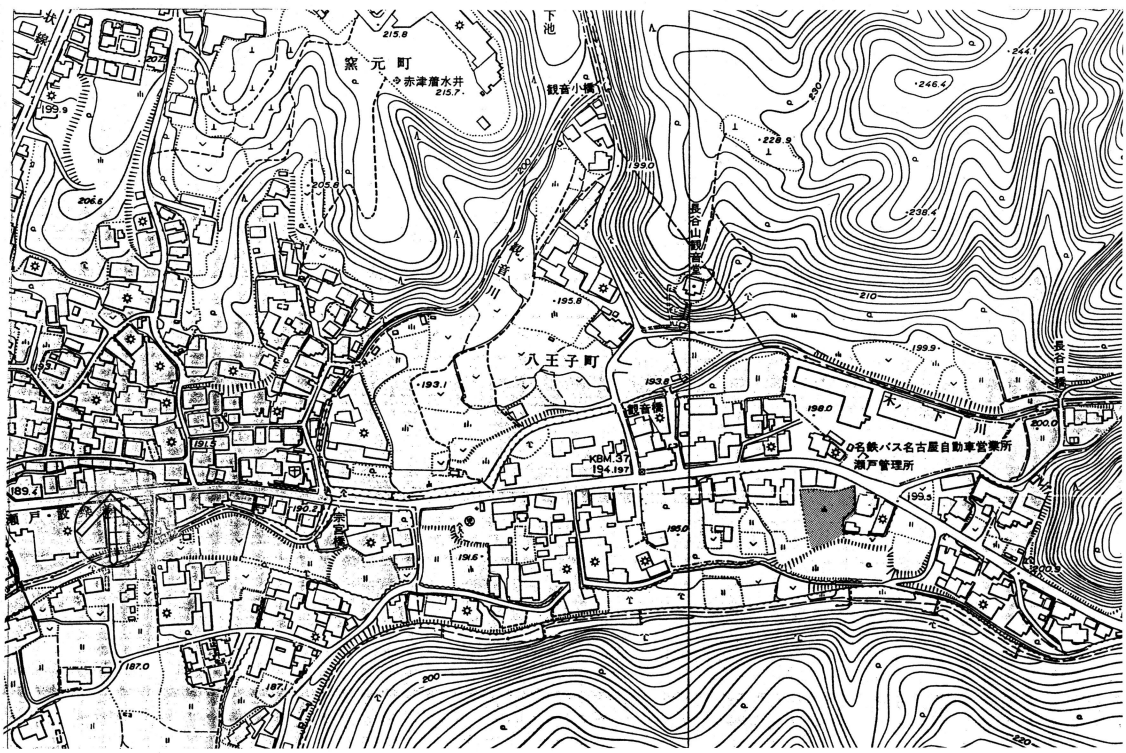
八王子遺跡（はちおうじ）

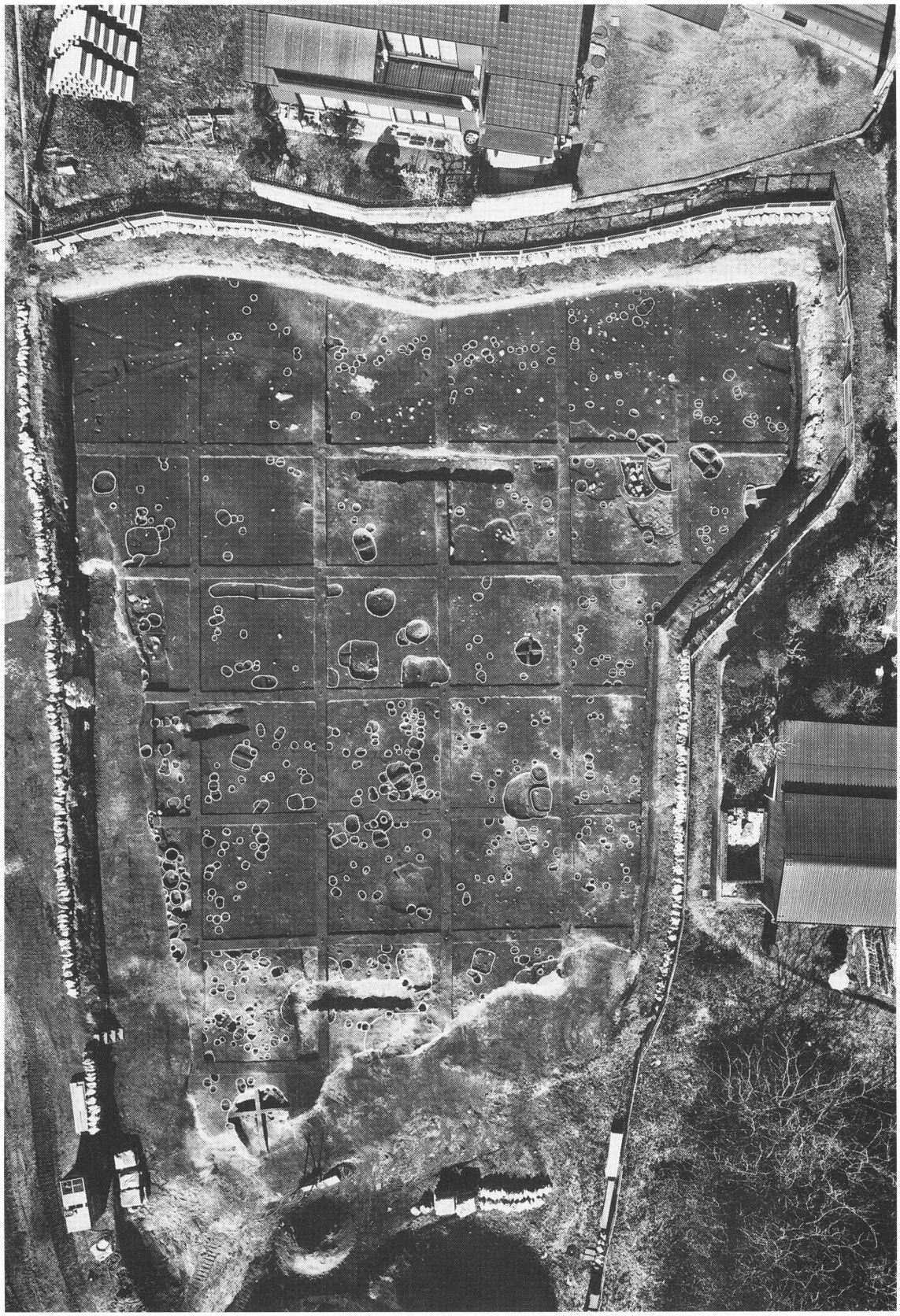
調査の経過　八王子遺跡は瀬戸市八王子町に所在する。ここは矢田川の支流赤津川によって形成された狭小な沖積地となっており、遺跡は標高200m前後の左岸側に立地する。周辺には縄文時代と中世の複合遺跡である白坂雲興寺遺跡をはじめ、古瀬戸を焼成した窯跡が数多く残っている。平成９年度の試掘結果をもとに東海環状自動車道建設に伴う事前調査として平成10年11月～平成11年２月にかけて約1,400㎡の調査を実施した。　（黒田哲生・浅井厚視）

調査の概要　調査区域は北から南へ赤津川に向かって緩やかに傾斜する。上面暗灰褐色シルト層では調査区中央から南辺にかけて14世紀～15世紀半ばの墓域に関連すると思われる土坑、ピットなど多数を検出した。焼土や骨片は検出されなかったが、なかでも３m×1.5mの楕円形土坑は口頸部を打ち欠いた灰釉瓶子、灰釉系陶器椀、灰釉平椀、鉄釉縁釉皿などを伴い、瓶子は不定形ながらも石による区画内部に埋納されていた。また径４0cm規模の円形土坑では窯道具である匣鉢と灰釉平椀を検出し、いずれも蔵骨器としての利用が想定される。

八王子遺跡の主体となる縄文時代については、繊維を含む早期（粕畑式）を中心に中期前半の土器片、石皿、磨石、チャート・石英を利用した石匙や石鏃、フレークが上層の包含層中からも大量に混在し、特に暗灰色～黒色シルト層が厚く堆積する調査区北側は、花崗岩の礫とともに遺物の集中地点が認められる。調査区中央以南では下層黒色土の堆積は不連続であり、集落の中心は調査区北東辺にかけて広がるものと思われる。　（武部真木）



第１図　調査区位置図（１：5,000）



調査区全景（上面）